

1. マクロ経済政策運営について

○当面どのようなテーマで検討を深めていくべきか

新しい時代にふさわしい新しい経済財政政策基本戦略の構築

1. 基本方針：高圧経済

- ・現状：インフレは復活したが半分以上はコスト・プッシュ、実質 GDP は停滞
- ・アベノミクスの成果と教訓・反省を踏まえた上で、時代状況に合わせた進化を目指す
- ・総需要をマクロ経済政策で適切に支えることが総供給の強化につながる

2. 経済政策の基本戦略

- ・内外の経済理論・政策論の動向に学ぶ
- ・政策の統合運用：マクロ政策、成長政策、貿易政策、再分配政策の統一的運用
財政政策、金融政策の緊密な連携：日銀法第 4 条の精神
- ・政策策定のインフラ強化：予算、人員の増強を！
経済統計：例 賃上げを目標→より正確な賃金統計！リアルタイム歳入・歳出、GDP 統計公表の先進国並み早期公表

モデル・試算 例 内閣府中長期試算の再検討（成長率、税収弾性値等）

- ・政策の正しいコミュニケーション

例 日本の財政状況は（フローでもストックでも）改善している

3. 財政政策の基本戦略：新しい時代状況に合わせた財政思想の転換、進化が必要

①物価が上がる世界を前提とした予算編成

インフレ対応型の歳入・歳出、一方で使命を終えた補助金の整理・見直し

②PB 黒字化目標はデフレ時代の歴史的産物、歴史的使命を終えた

過去：名目成長率＜長期金利→PB 黒字化が必要

現在（2013 年以降）：名目成長率＞長期金利→税収増加、一定の財政赤字の許容可能

③財政単年度主義からの脱却：投資としての政府支出：危機管理（国防等）、成長投資

④債務残高対 GDP 比への着目：総債務か純債務か

Cf. 「（財務省は）債務残高もいろいろある、という物の考え方をするようになった。科学的、冷静、客観的、360 度の目線がなければならず、非常にいい傾向だ」（11 月 4 日片山さつき財務大臣記者会見）

⑤補正よりも本予算の充実（戦略性、予見可能性、持続可能性）→来年度予算編成へ

4. 成長戦略（会議）との連携：成長戦略と枠組みを議論すべし

- ・成長の要は民間企業の活力：伝統的企業 vs スタートアップではなくどちらも！
- ・財政政策との連携：必要なところには国がお金をつける
- ・危機管理・成長への中長期投資の枠組み（投資促進税制、社会的割引率見直し、基金）
- ・成功確率を上げる工夫・努力：対象の明確化、期限・出口と評価、市場による規律等

2. 経済対策について

○留意すべきポイントは何か

- ①現状：短期的（7-9 月期）大幅マイナス成長予想、コスト・プッシュ要因インフレ剥落
- ②内容：3 つの柱建て（物価高対策、危機管理・成長投資、防衛力・外交力強化）
- ③規模：昨年（13.9 兆円）を上回る規模＊需給ギャップ、インフレへの影響試算は必須
- ④政策コミュニケーション：対策の必要性、財政状況への配慮 以上